



That's Mine. It's Mine

GEO協議会だより

編集・発行：Mine 秋吉台ジオパーク推進協議会事務局

6年生が教室で交流！ 厚保小と北海道や鹿児島県のジオパークとを生中継でつなぎました★



厚保小6年生は、昨年12月にジオパーク学習の一環として、Mine秋吉台ジオパークのエリア内にある本物の石を使った岩石標本をつくりながら、自分たちの住む地域の大地と人々との関わりを学びました。



次のステップとして2月21日(金)に行ったのが、厚保小の教室と日本各地のジオパークとを生中継でつなぎ、教室のモニターに映った現地の風景を見ながら、その成り立ちや人々の暮らしを知る授業です。今回は、北海道のとかち鹿追ジオパーク、岩手県の三陸ジオパーク、鹿児島県の三島村・鬼界カルデラジオパークの3地域とそれぞれ中継をつなぎました。

とかち鹿追は事務局の方が、三陸はジオガイドさんが説明をしてくださり、児童は熱心に耳を傾け、また様々な質問を投げかけていました。三島村・鬼界カルデラは、三島村立竹島小4・5年生の3人が出演してくださり、お互いの地域を紹介しました。特に、離島に暮らす竹島小の3人の話は、厚保小の児童にとって、いろいろな驚きがあったようです。

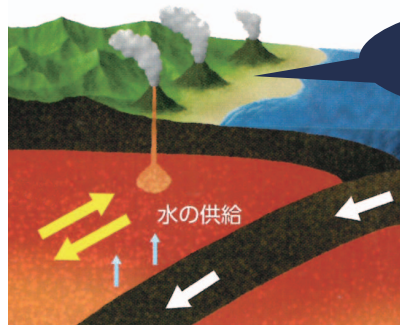
中継後に児童から、自地域との比較ができておもしろかったといった感想がたくさん聞かれました。今後は、他の学校でも同様なことを行っていきたいと考えています。



? 台湾馬祖地質公園 ? ? ばそ 台湾馬祖地質公園 ? ? ってどんなところ? ③

先月号のコラムで、馬祖列島の海岸は、岩肌がむき出しの崖になっているところが多いとお伝えしました。海岸の崖は、石が波や潮位の変化によって削られてできたものです。では、その石は一体どのようにしてできたのでしょうか?

それは、**海のプレートが陸のプレートの下に沈み込む際にできたマグマが、冷えて固まる**ことでできました。およそ1億5千万年前から1億年前におきたできごとで、主に花崗岩と呼ばれる石がつけられました。花崗岩は、石材としては御影石という名称で販売され、墓石などによく利用されます。Mine秋吉台ジオパークのエリア内でも見られ、例えば万倉の大岩郷は、花崗岩の仲間の石でできています。



馬祖列島が生まれたのは、この火山が噴火しているところです!

引用: 数研出版, 2017, フォトサイエンス地学図録, p. 67.



馬祖列島では、花崗岩が様々なものに利用されています。写真は北竿島の芹壁集落で、海岸には花崗岩が露出し、その縁に建てられた住居には、たくさんの花崗岩が使われています。

たのしいジオ勉強

ホップ・ステップ・スキルアップ♪

昨年5月から、Mine秋吉台ジオパークの認定ジオガイドとして活動しています。まだまだガイドとしての知識や経験が浅く未熟な私を、事務局や先輩ガイドの方々が、いつも優しく励まししっかりとサポートしてくださいました。その一つが半年に渡って数回開かれたガイドスキルアップ講座です。



スキルアップ講座は、ガイド一人一人が本ジオパークの国際的な価値を深く理解して、案内内容を標準化し、皆で共有することを目標に開かれました。講座は、まず秋吉台の地質・地形・草原などについて大学の先生や専門家の説明から始まりました。さらに鍾乳洞、別府弁天池、江原、長登銅山跡、大嶺炭田などは、その地に詳しい研究者や博物館の方々に実際に案内していただきました。

私自身、初めて足を踏み入れた場所や初めて見る景色があり、驚きました。秋芳梨の組合長の永嶺さんやゴボウ農家の堀田さんなど、地元の方々の貴重なお話も強く印象に残っています。現在は、これらの講座で学んだことをもとに、Mine秋吉台ジオパークのジオツアーを、より一層魅力的なものにするため、ガイド同士で話し合いを重ねています。皆様、ぜひ一度私たちのジオツアーを体験してみませんか？



認定ジオガイド 和田尚子

ジオガイドコラム げなげなジオ話⑩

平尾台と秋吉台、違いはどこ？

平尾台というカルスト台地の名は、たいていの方がご存じだろう。しかし「本家」の秋吉台の麓に住む美祢市民では行ったことのない人が多いかもしれない。

大きく違うのは石の形。秋吉台の草原に露出する石灰岩は尖っていて、表面にはカレンと呼ぶ細い溝がたくさんある。しかし、平尾台のものは、カレンがあまりなく、丸っこいものばかり。別名の羊群原にふさわしい形だ(↓写真)。



この違いはどこから来るのか？ 私なども「火山の熱で石灰岩が結晶質になって、つまり大理石に變成したから丸い」と説明してきたが、恥ずかしながら仕組みは知らなかった(実は秋吉台の周辺部には、普通の石灰岩に近いものから真っ白な大理石まで、結晶質の石も案外ある)。

最近知ったのだが、溶けた石灰岩はゆっくり再結晶するので結晶が大きくなり、その隙間が原因で、普通の石灰岩には起きない風化が起きて丸くなるのだそうだ。そういえば万倉の大岩郷の丸い石も、マグマが地下でゆっくり冷えた大きな結晶の花崗岩が風化し、その中心部が丸く残ったもの。それと似た仕組みげな。そうすると、平尾台には石灰岩質の真砂があるのかな？ 行って調べてみなくては…。

写真引用

<https://upload.wikimedia.org/wikipedia/commons/3/35/Hirao-karren.JPG>

認定ジオガイド 榎崎知行